



2014 「高校生ICT Conference」の取組



ケータイ、インターネットの啓発の課題

- 高校生の本音が知りたい
 - 法律もフィルタリングも大人が用意したもの
 - 当事者である高校生が、どう思っているのか？
- 高校生のフィルタリング利用率
 - 小学生62.2% 中学生61.1% 高校生49.3%(内閣府「平成25年度青少年のインターネット利用環境実態調査」)
- 保護される存在から自立した大人へ移行準備
 - 青少年インターネット環境整備法
 - 青少年健全育成条例 等
 - 被害者から加害者になる年齢に移行
 - 就学、就職を通して、社会人として責任の自覚の形成⇒情報化が一層進化した社会を担う世代
- 話題にのぼるSNS等の青少年トラブル
 - 福祉犯罪被害(性犯罪)
 - ネットを利用したいじめ
 - 課金によるトラブル
 - ネット依存
 - セキュリティ、なりすまし、炎上、個人情報漏洩、などなど
- 高校生にとってのインターネットの存在意義
 - 情報メディアの変化
 - 書籍・新聞・雑誌(活字メディア)⇒ラジオ・テレビ(放送メディア)⇒インターネット(双方向メディア)
 - インターネット時代に生まれ・育った子どもたちのメディアとの距離感
- 高校生が大切にしたい人間関係とは？
 - 変化した社会環境の中での、高校生の友人関係、親子関係、家族関係を結ぶコミュニケーションの実態

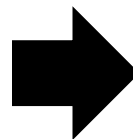
「高校生ICT Conference」の教育的な目的

- 大阪私学教育情報化研究会「ICTプロジェクト」
(International and Communication Technology Project)
- 『高校生の情報化と国際化に対応できるコミュニケーション能力育成に関する実証研究』
- 平成15年度から実施
- 実社会で活用できるプレゼンテーション能力の育成
 - コミュニケーション能力の開発
 - プレゼンテーションの総合的な技能の向上
- 平成23年度新たな取組として「熟議」の手法の導入に「高校生熟議」に
 - リアル熟議とネット熟議
 - 段階的に「考え、まとめる、話す、聞く、見せる、伝える」などの技術を習得
 - 関係省庁、教育関係者、事業者等のゲストによるレクチャー(キャリア教育的側面)
 - ケータイやインターネットという高校生にとって身近なテーマ
 - 新しい社会を創り、育てる主役としての自覚の形成

「高校生ICT Conference」が目指すもの

啓発活動における課題

- セミナーやシンポジウム形式に対する理解度・興味の薄れ
- 保護者層の参加率の低さ
- 自己責任に対する意識の希薄



- ネットが分からず対応できない保護者
- 操作能力が高い分、安易にネットを利用する高校生
- 知識・経験が不足してトラブルに巻き込まれる小・中学生

大人からのおしつけでなく
当事者の高校生が考える

負のスパイラルから
正のスパイラルへ

「高校生ICT Conference」が持つ3つの意味

- 当事者である高校生自身の気づき
- 年少の子どもに行動できる高校生の育成
- 次世代の保護者の育成



- リテラシーを持って子どものネット利用に目を配ることができる保護者
- リテラシーに加え情報モラルを獲得した高校生
- 身の回りにすぐに相談できる小・中学生



アドバイス

相談



高校生

知識の提供

モラルの提供



大人

高校生ICT Conferenceは、これまで大人が形成してきた情報化社会とそのルールにあって、次世代の社会を支える高校生が、自ら考え、他者の意見を聴き、議論し、意見をまとめ、発表することにより、将来のインターネット社会に臨む環境整備の一助になることを目的とした活動です。

高校生ICT Conference開催要件

■開催回数

高校生ICT Conferenceは、同一テーマで年二回開催を旨としています。
一回目は問題提議、二回目はその解決と提言の議論となります。

■高校生ICT Conferenceのやり方

高校生ICT Conferenceは、各校から集まった高校生を、極力同じ学校が入らないように、複数のグループに分けて行います。高校生は初対面同士で、自分の意見を発表するとともに、他人の意見にも耳を傾け、グループとしての意見をまとめ、発表する活動を行います。

■参加校の募集

高校生ICT Conferenceの主役は高校生。参加高校生がいて初めて開催が可能です。
1地域での開催目安 6校18人以上を目安としてください。

■地域事務局機能(地域自走型の運営)

実行委員会が最大限サポートしますが、現地でのコーディネーションが必要です。
会場の確保、各教育委員会、参加校との調整、懇親会の手配など、実行委員会では細かく対応できない部分についてご協力が必要です。

■ファシリテーターの確保

高校生ICT Conferenceは高校生が主役ですが、円滑に熟議を進める上では、議論を整理してくれるファシリテーターの役割が重要です。実行委員会から有識者の調整も行いますが、理想は現地の教職員、有識者の方々が担っていただければより地域性の高い熟議が開催できます。

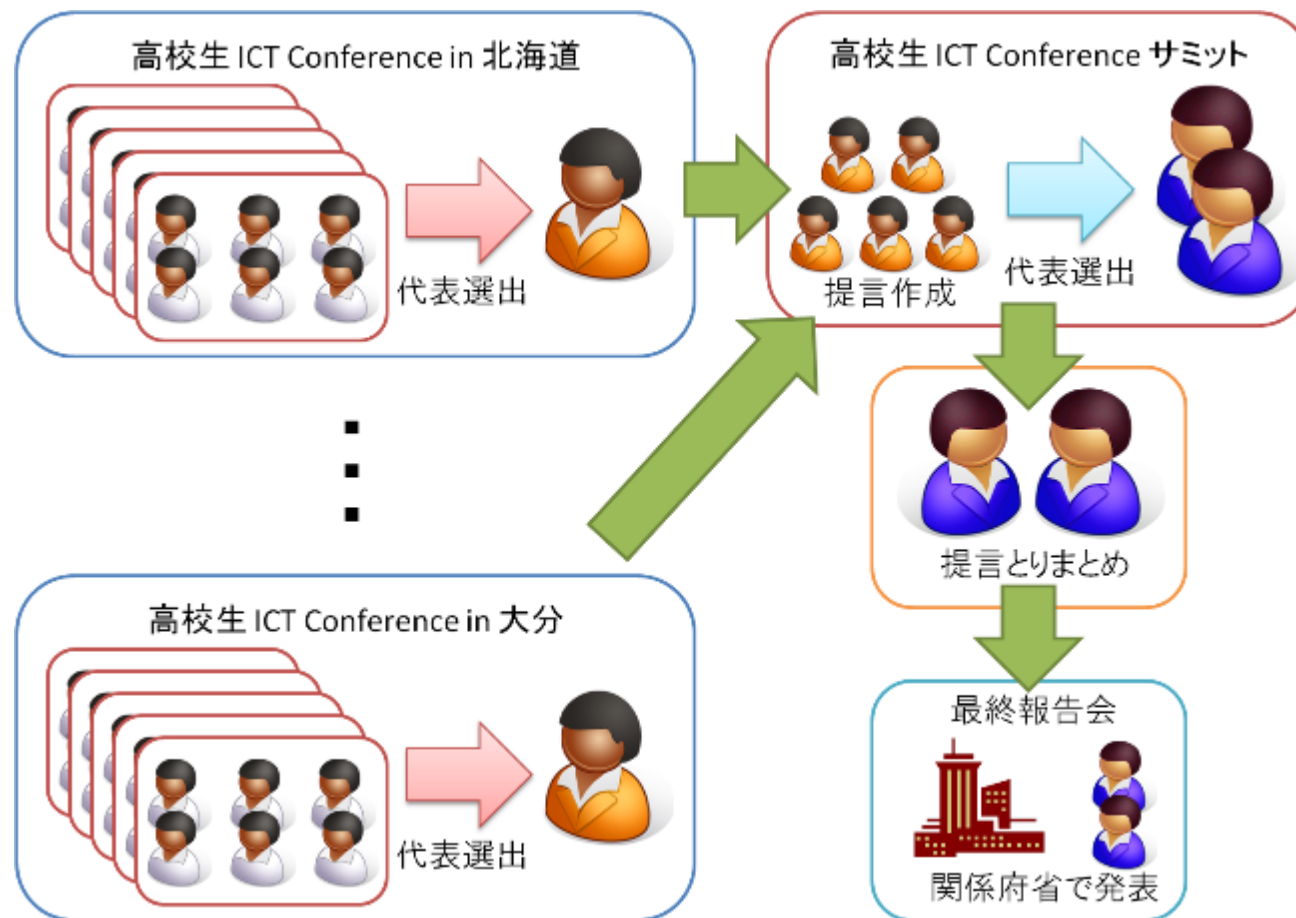
■書記の確保

高校生ICT Conferenceは、議論の内容をすべて記録し、その内容を踏まえて、次回の高校生ICT Conferenceにつなげていきます。そのために記録係である書記がグループごとに必要です。極力、地元の大学生などにサポートいただいています。

■費用について

費用は実行委員会で工面しますので、開催にあたって費用面でのご負担は必要ありません。(ただし会場までの交通費については、極端に遠隔地でない場合は、各校(各自)の負担でお願いしています。)

高校生ICT Conference の流れ



各地で同一テーマで開催される高校生ICT Conferenceから、代表者が集まってサミットを開催。サミットで提言をまとめます。サミット参加者から代表者2名が関係府省で提言を発表します。

高校生ICT Conferenceの歩み

情報化月間
40th
Anniversary

●2011年度

- 第1回 熟議テーマ「ネットとケータイの問題点」
- 第2回 熟議テーマ「私たちにとってのケータイ、インターネットとは」
- 第3回 熟議テーマ「これからのネットとケータイを考える」
- 開催場所 大阪 参加生徒数 11校 52人

41st
2nd
ICT12

●2012年度 「スマートフォン時代の情報モラルと利活用

- 第1回 「スマホって何？」
- 第2回 「スマホ時代のネットの在り方・使い方」
- サミット 「高校生が考えるスマートフォン時代の情報モラルと利活用」
- 開催場所 東京・大阪 参加生徒数 17校 79人

it
情報化
月間
2013

●2013年度 「考えてみよう！情報モラル・情報リテラシー教育の5W1H」

- 第1回 「何が知りたい？！情報のモラルとリテラシー」
- 第2回 「高校生だからできる『情報モラル・情報リテラシー教育』」
- サミット 「考えてみよう！情報モラル・情報リテラシー教育の5W1H」
- 開催場所 北海道・東京・奈良・大阪・大分 参加生徒数 51校 267人

高校生 ICT Conference (2014年度)

■ 高校生 ICT Conference 2014 テーマ

「考えよう！これからのスマートなネットの使い方・あり方」

■ 各回熟議テーマ

第1回 「小中学生に伝えたい 情報モラル」

第2回 「2020年のICT環境を創造する」

サミット 「考えよう！これからのスマートなネットの使い方・あり方」

■ 開催日程

・高校生ICT Conference 2014 in北海道

第一回 2014年9月28日(日) 13:30-17:00 第二回 2014年10月19日(日) 13:30-17:00

・高校生ICT Conference 2014 in 東京

第一回 2014年9月7日(土) 13:30-17:00 第二回 2014年10月4日(土) 13:30-17:00

・高校生ICT Conference 2014 in奈良

第一回 2014年7月27日(日) 13:30-17:00 第二回 2014年8月24日(日) 13:30-17:00

・高校生ICT Conference 2014 in大阪

第一回 2014年7月21日(月) 13:30-17:00 第二回 2013年10月4日(土) 13:30-17:00

・高校生ICT Conference 2014 in大分

第一回 2014年8月30日(土) 13:30-17:00 第二回 2014年9月27日(土) 13:30-17:00

・高校生ICT Conference 2014サミット(各地域の代表者による熟議)

2014年11月3日(月) 13:30-17:00

・最終報告会(サミットでの取りまとめを提言として関係府省庁等に報告)

2013年12月16日(火) 15:30-17:30 内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」、総務省、文部科学省

■ 主催・共催

一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構、安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報化研究会

■ 後援

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、北海道、奈良県、北海道教育委員会、奈良県教育委員会、大分県教育委員会

北海道青少年有害情報対策実行委員会

全国高等学校情報教育研究会、東京都高等学校情報教育研究会、大阪府高等学校情報教育研究会、奈良県情報教育研究会

独立行政法人情報処理推進機構、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所、一般社団法人全国高等学校PTA連合会

一般社団法人ソーシャルゲーム協会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会

特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構

■ 協賛

グーグル株式会社、グリー株式会社、株式会社ディー・エヌ・エー、株式会社メディア開発総研、LINE株式会社、株式会社中部トータルサービス

■ 協力

一般財団法人日本脳力研究協会、NPO法人企業教育研究会、一般社団法人情報教育研究所

アルプス システム インテグレーション株式会社、株式会社インテグラル、株式会社内田洋行、株式会社NTTドコモ、株式会社ガイアックス、KDDI株式会社

株式会社サイバーエージェント、ソフトバンクモバイル株式会社、デジタルアーツ株式会社、株式会社BITS PUZZLE、株式会社ミクシィ、ワイモバイル株式会社

高校生 ICT Conference (2014年度)

【2014年度の参加状況】

参加生徒数 44校 221人

《北海道》6校 26人

北海道札幌東豊高等学校
北海道札幌月寒高等学校
北海道大麻高等学校
北海道旭川工業高等学校
北海道静内農業高等学校
北海道札幌旭丘高等学校

《奈良》8校 56人

関西中央高等学校
奈良県立西の京高等学校
奈良県立御所実業高等学校
奈良県立香芝高等学校
奈良県立奈良朱雀高等学校
奈良県立大和広陵高等学校
奈良県立王寺工業高等学校
奈良県立奈良情報商業高等学校

《東京》9校 31人

自由学園高等科
栃木県立宇都宮北高等学校
帝京高等学校
高輪高等学校
埼玉県立浦和高等学校
水城高等学校
水戸葵陵高等学校
鎌倉女学院高等学校
神奈川学園高等学校

《大分》12校 56人

大分県立大分豊府高等学校
大分県立由布高等学校
大分県立大分鶴崎高等学校
大分県立大分舞鶴高等学校
大分県立佐伯鶴城高等学校
大分県立情報科学高等学校
大分県立大分雄城台高等学校
大分県立別府青山高等学校
大分県立大分工業高等学校
大分県立宇佐産業科学高等学校
大分県立大分南高等学校
大分国際情報高等学校

《大阪》9校 52人

大阪市立東高等学校
関西学院千里国際高等部
プール学院高等学校
大阪府立東百舌鳥高等学校
羽衣学園高等学校
大阪学院大学高等学校
大阪青凌高等学校
大阪成蹊女子高等学校
奈良県立御所実業高等学校

【サミット 参加校】

北海道札幌月寒高等学校
水戸葵陵高等学校
羽衣学園高等学校
奈良県立王寺工業高等学校
大分県立別府青山高等学校

沖縄県立南風原高等学校
(招待参加)

【最終報告会 参加校】

羽衣学園高等学校
大分県立別府青山高等学校

広がる高校生ICT Conferenceの輪

2011
年度
大阪

1拠点からスタート
11校52人の参加

2012年度
東京・大阪

2拠点へ拡大
17校79人の参加

全国展開への展望
より広く・より多く

日本中で、高校生
が自ら考える環境

2013年度
東京・大阪
に加えて
北海道・九州・
奈良で開催

将来

全国各地域で開催
夢は47都道府県で
の開催へ

10年計画